

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

卒業生の寄付金で遊具を整備

高小学校がお披露目会

昨年、高地区出身の叶迫恵さん（和歌山県在住）が地元の振興に役立ててほしいと庄原市へ寄付した資金を活用し、高小学校がすべり台、ブランコを整備しました。

9月3日は、お披露目会が行われ、沖野稔則校長が子どもたちへ経緯を説明し、高自治振興区の片山孝昭区長が「ふるさとの子どもたちが元気に育ってほしい」という叶迫さんの思いを紹介しました。

区長と児童代表によるテープカットの後、さっそく、子どもたちはすべり台とブランコに行列を作って楽しみ、「もっと楽しい遊具があればいいのと思っていたので、願いが叶ってうれしい。大切に使っていきたい」と話していました。

叶迫さんは今年、庄原市に1千万円を寄付。庄原市は叶迫さんの意向を尊重し、半分を庁舎建設へ、半分を高小学校の備品整備に充てることにしました。高小学校ではAED（自動体外式除細動器）なども購入し、今後図書1580冊、本棚、机・椅子、給食の配膳台などを整備する予定です。



行列を作って遊具を楽しむ子どもたち

絵本の魅力がいっぱい

和歌山静子・絵本原画展

8月23日～29日まで、東城支所ホールで『和歌山静子・絵本原画展』が開催されました。

「ぼくは王さま」シリーズの原画をはじめ、絵本「夜明けまで」や、古布で作った原画など約40点を展示。また、26日には『私の絵本づくりのターニング・ポイント』と題して、絵本作家・和歌山静子さんのトークショーが行われ、約60人が参加しました。



絵本の読み聞かせを楽しむ東城保育所の園児

絵本を描き始めたきっかけや絵本ができるまでを、絵コンテを手で紹介。絵本の読み聞かせでは、会場にいる子どもたちと一緒に、自然と声を出して読んでいました。

和歌山さんは「絵本は子どもが一人で読むのではなく、親や保育士と一緒に読んであげるもの。子どもは耳で聞くことで、その土地ならではの感覚やイントネーションを自然に覚えることもできる」と話していました。

画家 和歌山静子さん トークショー
テーマ「私の絵本づくりのターニング・ポイント」



講演する和歌山静子さん

数十年に一度の屋根の葺き替え

堀江家住宅の工事が完了

高野町中門田にある国重要文化財の堀江家住宅は、屋根茅の老朽化や雪による被害のため、昨年11月から茅葺き屋根の保存・修復工事に取り組み、このほど完了しました。

堀江家住宅は、「かつて」、「おもて」、「なんど」の三室からなる「広間型三間取り」と呼ばれる古い居室形式を残しています。曲がりくねった材木を巧みに使い、江戸時代はじめの中国山地の民家の原形をよくとどめ、当時の大工の技術などを現代に伝える民俗学的にも大変貴重な文化財です。

現代に残る庄原市の貴重な歴史的財産をぜひご覧ください。



茅葺き屋根が美しい堀江家住宅

市長が訪問し長寿を祝う

100歳以上へ敬老祝い金

9月の老人保健福祉月間にあわせて、9月18日と19日の2日間、滝口季彦市長が市内の100歳以上の長寿者（明治41年3月31日以前に生まれた人）を訪問し、長寿を祝いました。

今年度の対象者は、市内で36人、最高齢者は満105歳です。

山口正男さん（水越町）は、市長から敬老祝い金を受け取ると、「ありがとうございます。市長のお父さんをよく覚えています。顔が似てきましたね」と昔をなつかしんでいました。また、「物事にくよくよせず、のんびりと暮らすことが長生きの秘訣」と話していました。



今年度100歳到達者へ贈られる内閣総理大臣の祝状を手渡す

中学生の神楽が20周年

口和中神楽同好会定期公演



伊吹山を演じる

口和中学校神楽同好会の定期公演が8月18日、口和文化ホールヒューマンライツで開催されました。

口和中神楽同好会（会員16人）は、口和の神楽同好会「戸山会」の指導を受け、週に1回神楽の練習に取り組んでいます。特に、今年の定期公演は20回目の節目ということもあり、練習にも熱が入り真剣に取り組んできました。

当日は、「竹夜叉鬼人の能」「伊吹山」など5つの演目を演じ、会場から盛大な拍手を受けていました。公演の最後には20周年を祝い、出演者全員で餅まきを行いました。

県知事に市民が直接提案

県政懇談会「You雄トーク」

地域住民と県知事が直接意見交換を行う県政懇談会「You雄トーク」が9月14日、食彩館「ゆめさくら」で行われました。

市内各地域から市が推薦した7人が参加。自らが行っている地域づくりや福祉活動、農業の取り組みなどを紹介し、県政について藤田雄山知事と意見交換しました。

参加者は知事を目の前に緊張しながらも、中山間地域が抱える生活交通の問題、小規模農家への支援、定住対策など、この地域特有の課題を訴えました。藤田知事は「大都市優先の県政は考えていない。日本全体をみても地方があるから東京がある。中山間地域にできるだけ雇用の機会が増えるよう考えていきたい」と話していました。



県知事に提言



第3回 You雄トーク

平成19年9月14日

参加者が県知事と記念撮影

地元産大豆の手作り豆腐を試作販売 北自治振興区が地産地消事業

北自治振興区（住田鉄也区長）が9月18日、川北町の北自治振興センターで豆腐などを手作りし、地域住民らに販売しました。

これは、地域の特産品づくりと地産地消を推進しようと同振興区の地域振興部と女性部が中心となって企画。地元の八幡自治会の住民が転作田で栽培した大豆を同振興区が買い取り、9月から毎月第1・第3火曜日に試作販売しています。



こんにゃくを作る女性部員



豆腐をバックにつめる

調理は各自治会の女性部から当番制で8人が参加。この日は、「昔家庭で作っていた」という女性部長の吉田幸枝さんを中心に、豆腐60丁、おから20袋、こんにゃく玉100個を作りました。防腐剤などは一切使用せず、安心・安全が売り。さっそく同振興区の交流施設「ふれあいサロン北」で販売すると、「この前買って帰ったら、おいしいと評判だった」などと近所の住民らが駆けつけました。

吉田幸枝さんは「これからは豆腐づくりを各自治会へ、そして各家庭へと普及し、住民自らが安心・安全な食卓づくりに取り組み、地域の活性化につながるようがんばりたい」と話していました。

戦争・原爆を風化させない 口北小で被爆体験記朗読会

「口和本の会」による被爆体験記朗読会が9月6日、口北小学校で行われました。

原爆の生々しい爪跡を記録したビデオを鑑賞した後、会員の岩瀧朋子さん、花本弘子さん、川崎弘子さんの3人が、原爆の惨状をつづった体験記や原爆詩を朗読しました。その中には、テレビなどでも紹介された詩もあり、参加した児童らは、真剣なまなざしで聞き入っていました。



朗読する「口和本の会」の皆さん

この「口和本の会」は、広島市にある国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で「朗読サポーター」の研修を受けた3人が、口和公民館を拠点にボランティアで活動しています。学校での朗読会は3年前から始まり、現在では、庄原市や三次市の小・中学校で行われるまでになりました。今年も口和町、高野町などで開催され、その度に、児童たちは平和の尊さと原爆・戦争の惨状について学んでいます。

しかし、その一方で、原爆が投下されてから60年以上が経ち、戦争・原爆といった事実が風化されてきつつあるのも実感しているとのこと。自らも被爆2世である岩瀧さんは、「朗読会を通じて、戦争や原爆の恐ろしさだけでなく、平和や人権について真剣に向き合えるようになってほしい」と話しています。また、「これからも、小・中学生向けに被爆体験記の朗読会を開催し、平和の大切さと人権を尊重するよう子どもたちへメッセージを送っていききたい」と話していました。

朗読会に興味のある方は、口和公民館（☎0824-87-2213）までお問い合わせください。

夏野菜を使っておいしい離乳食 母子栄養講座「おひさま百科」

8月28日、西城しあわせ館で、子どもの健やかな成長と親子のふれあいを目的とした、母子栄養講座「おひさま百科」が開催されました。

お母さんと生後6か月から小学1年生までの子ども、合わせて22人が参加。今回は、「夏野菜をおいしく食べよう！」をテーマに、地元の旬の食材を使った、幼児食・離乳食づくりの調理実習をしました。

メニューは、ミートスパゲティ・とうがんスープ・牛乳かんの3品で、旬の食材として、道後山高原でこの日採れたばかりの西城産イタリアントマト「シシリアンルージュ」と、庄原産のとうがんを使いました。刻んだトマトとじゃがいもを煮たり、スパゲティをみじん切りにしてトマトと一緒に煮たりして、生後5・6か月用、7・8か月用、9～11か月用と離乳食にもアレンジしました。

素材の味を生かしたメニューが好評で、参加者は「これからは離乳食にも旬の素材を取り入れたい」「とうがんを初めて食べたが、くせがなく食べやすいので、これから使っていきたい」などと話していました。



素材の味を生かしたメニューを楽しむ

交通死亡事故ゼロを目指す セーフティ・アーチ in 西城

9月20日、西城運輸砕石（株）の駐車場で、秋の全国交通安全運動に先駆けて交通安全推進大会「セーフティ・アーチ in 西城」を開催しました。

庄原市は、8月に入り2件の交通死亡事故が発生し、死亡事故多発警報が発令されるなど、ちょっとした気の緩みが重大事故につながっています。

大会では、交通安全を祈願し、美古登小学校の4～6年生23人による力強い太鼓演奏と西城町神楽愛好会による大黒舞が披露され、高齢者の事故防止や飲酒運転の根絶などをドライバーへ呼びかけました。また、夕方には小鳥原みどりの少年団によるテント村が実施され、手作りの交通安全折り鶴の配布とともに安全運転の呼びかけを行いました。



美古登小学校が太鼓演奏

医学生と地域住民が交流 総領診療所で地域医療セミナー

8月16日・17日の2日間、総領町健康福祉センターで、自治医科大学などの医学生と住民の皆さんが参加して、地域医療セミナーが開催されました。

総領診療所在職経験のある宮本医師による「胸やけで困っていませんか」と題する講座や、現在の診療所長の永井医師による「高血圧、その管理の重要性」についての講座が行われ、参加者は日頃の健康管理の重要性について再認識していました。また、生活改善に向けたクイズや総領診療所での実話をもとにした寸劇などを医学生が行い、医学生と参加者との交流の輪が広がり、会場内は大いに盛り上がりました。

参加者は「将来の医者としての交流できてよかった」と話していました。



医学生による寸劇

川遊びでたくましい口和っ子の育成 源流域で青少年育成事業

青少年育成庄原市民会議口和支部（原田征一郎会長）と竹地谷自治振興会（影山茂登会長）が夏休みに、口和町竹地谷柄松川で「風光明媚なたけち・親子で楽しもう」と題して、親子で川に親しむイベントを開催しました。



鮎の塩焼きを食べる

口和町内外の親子30人が参加。青年サークルまんぶう、そして下流の江の川漁業協同組合の協力で、清流に入って水遊びや釣りなどを楽しみました。また、自治振興会からかしわ餅、漁協から鮎が提供され、親子は竹地谷の美しい自然を眺めながらおいしく味わっていました。



川遊びを楽しむ子どもたち

映画を通じて人権啓発 『ほたるの星』を上映

8月23日、比和文化会館で映画「ほたるの星」を上映し、106人が鑑賞しました。

この上映会は、地域人権啓発活動活性化事業の一環として上映されもので、理想に燃える小学校教師と複雑な家庭環境により心を閉ざしてしまった少女、少女のクラスメートたちがほたるの飼育を通じて心を通わせていく実話を基にした作品です。



「ほたるの星」ワンシーン
©「ほたるの星」製作委員会



映画上映に多くの市民が参加

上映会の参加者は、「先生と生徒の心が通い合うシーンに感動した」「子どもたちも楽しめる内容で良かった」「心温まる映画をまた上映してほしい」と話していました。

また、同事業により、8月31日に東城、9月5日に庄原を会場として映画「ぷりてい ウーマン」を上映し、多くの市民が訪れました。

離乳食クッキングにトライ 子育て支援事業「なかよしサロン」

8月28日、比和自治振興会館で離乳食クッキング講習会が開催され、6組12人の親子が参加しました。この講習会は、庄原市が子育て支援事業として取り組む「なかよしサロン」が開いたもので、保育所に通っていない子と親・家族が参加対象者となっています。

講習会では、まず栄養士から離乳食メニューの例や食べやすくするための調理方法、栄養バランスのとれた食事の重要性などの説明があり、さっそく参加者全員で調理実習を行いました。お互いの子育てに関する悩み、アドバイスなど、調理実習をしながら自然と会話も弾んでいました。調理後は、親子で試食。子どもたちもおいしそうに食事を楽しんでいました。

なかよしサロンに初めて参加した岡本さんは「家にいると閉じこもりがちになるけど、こうした交流の場があるといろんな話しができて楽しい。ぜひ、また参加したい」と話していました。

なかよしサロンは、楽しく子育てをしてもらうために、毎月1回、コーディネーターと保健師が中心となって、子育てに関する様々な情報の提供や、母親や子どもたちの交流の場を用意し、趣向を凝らした取り組みを行っています。



わいわい楽しくクッキング